

表1.各種薬剤の梨病害に対する防除効果

供試薬剤名	希釈倍数	平成30年黒星病			令和元年黒星病			平成30年赤星病			令和元年赤星病		
		発病葉率 (%)	発病度	防除価	発病葉率 (%)	発病度	防除価	発病葉率 (%)	発病度	防除価	発病葉率 (%)	発病度	防除価
ミギワ20フロアブル (新規系統剤)	2,000	0.5	0.1	97.9	0	0	100	0.8	0.2	33.3	1.18	0.24	0
スコア顆粒水和剤 (DMI剤)	4,000	0.7	0.1	97.9	—	—	—	0.1	0.0	93.3	—	—	—
ベルコートフロアブル (保護殺菌剤)	1,500	1.7	0.4	91.5	0.7	0.1	98.7	0.8	0.2	33.3	0.28	0.06	40.0
チオノックフロアブル (保護殺菌剤)	500	—	—	—	1.6	0.4	95.2	—	—	—	0.30	0.06	40.0
無処理		13.4	4.7		14.5	7.6		1.3	0.3		0.49	0.10	

注1) 黒星病及び赤星病はナシ「長十郎」立木仕立てを用いて、4月下旬から約10日間隔で計5回薬剤散布を行い、最終散布12～13日後に発病調査を実施した

2) —は試験未実施

3) 黒星病の発病度は以下のとおり算出した

$$\text{発病度} = \sum (\text{程度別発病葉数} \times \text{指数}) \times 100 / (\text{調査葉数} \times 5)$$

発病指数 0: 発病無し、1: 病斑数1個/葉、3: 病斑数2～3個/葉、5: 病斑数4個以上/葉

$$\text{防除価} = (1 - \text{供試薬剤の発病度} / \text{無処理区の発病度}) \times 100$$

4) 赤星病の発病度及び防除価は以下のとおり算出した

発病指数 0: 発病無し、1: 病斑数1～5個/葉、3: 病斑数6～15個/葉、5: 病斑数16個以上/葉

$$\text{発病度} = \sum (\text{程度別発病葉数} \times \text{指数}) \times 100 / (\text{調査葉数} \times 5)$$

$$\text{防除価} = (1 - \text{供試薬剤の発病度} / \text{無処理区の発病度}) \times 100$$